

福井県知事 杉本 達治 殿

〔設置者の名称〕 学校法人金井学園

〔代表者の役職〕 理事長 〔代表者の氏名〕 金井 兼

大学等における修学の支援に関する法律第 7 条第 1 項の確認に係る申請書

○申請者に関する情報

大学等の名称	福井県医療福祉専門学校
大学等の種類 (いずれかに○を付すこと)	(大学・短期大学・高等専門学校 <u>専門学校</u>)
大学等の所在地	福井市高木中央 3 丁目 2018
学長又は校長の氏名	校長 栗原 美幸
設置者の名称	学校法人金井学園
設置者の主たる事務所の所在地	福井市学園 3 丁目 6-1
設置者の代表者の氏名	理事長 金井 兼
申請書を公表する予定のホームページアドレス	https://fmw.ac.jp/

※ 以下のいずれかの□にレ点 (☑) を付けて下さい。

 確認申請

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 1 項に基づき確認申請書を提出します。

 更新確認申請書の提出

大学等における修学の支援に関する法律施行規則第 5 条第 3 項に基づき更新確認申請書を提出します。

※ 以下の事項を必ず確認の上、すべての□にレ点 (☑) を付けて下さい。

 この申請書 (添付書類を含む。) の記載内容は、事実と相違ありません。 確認を受けた大学等は、大学等における修学の支援に関する法律 (以下「大学等修学支援法」という。) に基づき、基準を満たす学生等を減免対象者として認定し、その授業料及び入学金を減免する義務があることを承知していません。 大学等が確認を取り消されたり、確認を辞退した場合も、減免対象者が卒業するまでの間、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。 この申請書に虚偽の記載をするなど、不正な行為をした場合には、確認を取

り消されたり、交付された減免費用の返還を命じられる場合があるととも、減免対象者が卒業するまでの間、自らが費用を負担して、その授業料等を減免する義務があることを承知しています。

- 申請する大学等及びその設置者は、大学等修学支援法第7条第2項第3号及び第4号に該当します。

○各様式の担当者名と連絡先一覧

様式番号	所属部署・担当者名	電話番号	電子メールアドレス
第1号	事務局 出口 美早紀	0776-52-5530	info@fmw.ac.jp
第2号の1	事務局 出口 美早紀	0776-52-5530	info@fmw.ac.jp
第2号の2	事務局 出口 美早紀	0776-52-5530	info@fmw.ac.jp
第2号の3	事務局 出口 美早紀	0776-52-5530	info@fmw.ac.jp
第2号の4	事務局 出口 美早紀	0776-52-5530	info@fmw.ac.jp

○添付書類

※ 以下の事項を必ず確認し、必要な書類の□にレ点 (☑) を付けた上で、これらの書類を添付してください。(設置者の法人類型ごとに添付する資料が異なることに注意してください。)

「(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置」関係

- 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表《省令で定める単位数等の基準数相当分》
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》

「(2)①学外者である理事の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の設置者の理事（役員）名簿

「(2)②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置」関係

- 《一部の設置者のみ》大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織に関する規程とその構成員の名簿

「(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表」関係

- 客観的な指標に基づく成績の分布状況を示す資料
- 実務経験のある教員等による授業科目の授業計画書（シラバス）《省令で定める単位数等の基準数相当分》【再掲】

その他

- 《私立学校のみ》経営要件を満たすことを示す資料
- 確認申請を行う年度において設置している学部等の一覧

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	福井県医療福祉専門学校
設置者名	学校法人金井学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
社会福祉 専門課程	こども・介護学科 保育士・幼稚園教諭 コース	夜・通信	975 時間	160 時間	
	こども・介護学科 介護福祉士コース	夜・通信	1,290 時間	160 時間	
商業実務 専門課程	医療事務学科	夜・通信	591 時間	80 時間	
文化教養 専門課程	日本語学科 2年コース	夜・通信	1,350 時間	160 時間	
	日本語学科 1年6ヶ月コース	夜・通信	960 時間	120 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://fmw.ac.jp/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	福井県医療福祉専門学校
設置者名	学校法人金井学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kanaigakuen.jp/organization/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	税理士	4年	財務
非常勤	弁護士	4年	法務
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福井県医療福祉専門学校
設置者名	学校法人金井学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月 前年度事業実績報告 ・ 7月 当年度後期外部講師への打診および調整 ・ 8月 当年度後期時間割確定 ・ 1月 学校関係者評価 ・ 2月 次年度前期外部講師への打診および調整 ・ 3月 次年度前期時間割確定 ・ 3月 次年度年間スケジュール確定 ・ 4月 新生に学生便覧(学則・履修要綱含む)を配布 	
授業計画書の公表方法	https://fmw.ac.jp/syllabus.pdf
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月 前年度事業実績報告・学校関係者評価 ・ 9月 前期定期試験 ・ 9月 前期単位認定状況の確認 ・ 2月 後期定期試験 ・ 3月 後期単位認定状況の確認、卒業判定会議、進級判定会議 	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取り組みの概要)

・GPAは、学生が履修した全科目の成績の平均を数値で表したもので、本校が導入するGPAの算出式は下記に示す通りです。

- (1) 試験得点に応じて5段階(4.0、3.0、2.0、1.0、0)の数値(グレードポイント)を設定します。なお、受講を途中でやめた科目や不合格となった科目はグレードポイントが0点となります。
- (2) 各履修科目のグレードポイントに、科目の時間数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を履修科目の時間数の合計で割ったものがGPAとなります。

【新しい成績評価とGPA】

評価	評点	グレードポイント
秀	100点～90点	4.0
優	89点～80点	3.0
良	79点～70点	2.0
可	69点～60点	1.0
不可	59点以下	0

不可はGPA計算対象外(履修時間数は関係する)

【GPAの算出方法】

GPAの算出基礎になる科目は「すべての科目」を対象とします。

算出式

$$\frac{4.0 \times \text{秀の習得時間数} + 3.0 \times \text{優の習得時間数} + 2.0 \times \text{良の習得時間数} + 1.0 \times \text{可の習得時間数}}{\text{総履修登録時間数 (不可の時間数を含む)}}$$

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://fmw.ac.jp/grade.pdf>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

(1) 成績

- ① 成績は、授業科目担当教員が試験の結果および受講状況などを総合して評価する。
- ② 試験の成績は、学期末に通知する。
- ③ 評価、評価基準は次のとおりである。

秀	90点～100点
優	80点～89点
良	70点～79点
可	60点～69点
不可	60点未満
- ④ 実習においては、別に定める。
- ⑤ 日本語学科においては、校長は、学生が履修中の各授業科目について、学期末及び学年毎に評価するものとする。学習の評価は、試験成績、平常点、出席状況等を総合して決定し、S・A・B・C・Dの5段階で評価を行う。

S	90点～100点
A	80点～89点
B	70点～79点
C	60点～69点
D	60点未満

※D(60点未満)は不合格とする

(2) 進級

- ① 進級者は判定会議後発表する。但し、疾病、怪我などのやむを得ない事由がある者については考慮することもある。
- ② 日本語学科においては、校長は、学生が本学科の定める指導計画に従って授業科目を履修し、学習評価が授業科目の目標から見て満足できると認められる場合に、当該授業科目について履修したことを認定するものとする。

(3) 留年

- ① 学科が定める留年対象外となる科目は、下記のとおりである。
* 評価基準が別に定められているため学科教務が制度対象外とした科目
… 現在の該当科目＝事例検討・介護実習Ⅰ・Ⅱ・保育実習ⅠA・ⅠB・Ⅱ
- ② 学科が定める留年対象となる授業科目のうち不合格が7科目以上の場合は留年とし、その学年における全ての科目について再履修することとする。
- ③ 学科が定める留年対象となる授業科目のうち不合格が6科目以下の場合は科目留年とし、その科目を再履修または再受験しなければならない。
- ④ 留年・科目留年については、授業料（新教科書については実費）の学費納入が必要となる。ただし、所定の在学期間内の再受験対象者は学費の納入を必要としない。納入手続き等は、所定の日時までに行わなければならない。
- ⑤ 学校が定めた所定の教育課程の単位を全て取得しなければ卒業することはできない。

A) 再履修制度

学年において出席日数不足で単位未認定となった科目、また、再受験で不合格になった科目は、次年度以降開講される授業に出席し再履修した後でない、その試験をあらためて受験することはできない。

B) 再受験制度

- ① その学年において単位認定試験(定期試験)を受験し不合格となり、単位未認定科目が6科目以下の者は、次年度その科目の試験のみをあらためて受験することができる。
- ② 再受験制度は、以下の科目には適用されない。
 - (1) 出席日数不足のため単位認定試験を受けられず、次年度以降再履修する科目
 - (2) 評価基準が別に定められているため学科教務が制度対象外とした科目
… 事例検討・介護実習Ⅰ・Ⅱ・保育実習ⅠA・ⅠB・Ⅱ（別に定める）
- ③ 再受験を受験しようとする者は、必要事項を間違いなく記入し捺印した再受験願を提出しなければならない。受験手続きは事務局で受験料を添えて申し込み、所定の日時までに学科教務へ再受験願を提出したことをもって完了する。
- ④ 科目名の誤記など上記手続きを完了していない者は、再受験をすることができない。
- ⑤ 再受験の結果、合格した者にはその科目の単位を認定する。
- ⑥ 再受験の結果、不合格になった者に対し1回限り再試験を行うことがある。再試験の規定は(6)B)に準じる。
- ⑦ 再受験の科目が不合格となった場合は、次年度以降、再履修となる。
- ⑧ 日本語学科においては、本試験を欠席し、本人の病気・負傷、家族の死亡、その他学校長が認めた正当な事由によって成績評価ができない場合、追試験の手続きを行った者に対しては追試験を許可する。ただし、追試験の再試験は認めない。本試験で不合格になった者は、科目担当教員の判断により1回に限り再試験を行うことがある。その場合は再試験の手続きを行わなければならない。

(4) 介護実習、保育実習

- ① 出席日数不足で単位未認定になった者、また不合格になった者に関しては、学校が定める日に再履修することとなる。その際、実習にかかる費用（健康診断、検便、実習費、それに伴う諸経費など）の実費を納入することとなる。
- ② 出席日数を満たしているが、教員が必要と認めた場合、実習を追加することもある。その場合、実習に係る費用は実費とする。

(5) 卒業

卒業は、下記の要件を満たす者とする。

- ① 履修した一般教養科目と専門科目の単位をすべて取得していること。
- ② 卒業判定会議にて、卒業要件を満たしていることを確認する。ただし、疾病、けがなどのやむを得ない事由がある者については考慮することもある。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

<https://fmw.ac.jp/grade.pdf>

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	福井県医療福祉専門学校
設置者名	学校法人金井学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kanaigakuen.jp/financial/
収支計算書又は損益計算書	https://www.kanaigakuen.jp/financial/
財産目録	https://www.kanaigakuen.jp/financial/
事業報告書	https://www.kanaigakuen.jp/financial/
監事による監査報告（書）	https://www.kanaigakuen.jp/financial/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
社会福祉		社会福祉専門課程	こども・介護学科	○			
修業 年限	昼 夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	保育士・幼稚園教諭コース 1,740時間	450時間	975時間	285時間		30時間
			1,740時間				
		介護福祉士コース 1,986時間	705時間	795時間	456時間		30時間
			1,986時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
200人		69人	27人	8人	11人	19人	

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
商業実務		商業実務課程	医療事務学科				
修業 年限	昼 夜	全課程の修了に必要な総授業 時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	901時間	552時間	300時間	49時間		
			901時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40人		26人	0人	1人	4人	5人	

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化教養	文化教養専門課程	日本語学科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授 業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2年コース 1,660時間	1,580 時間	80時間			
			1,660時間				
1.5年	昼	1年6ヶ月コース 1,240時間	1,240 時間				
			1,240時間				
生徒総定 員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80人	3人	3人	3人	2人	5人		

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）																				
<p>（概要）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月 前年度事業実績報告 ・7月 当年度後期外部講師への打診および調整 ・8月 当年度後期授業時間割確定 ・1月 学校関係者評価 ・2月 次年度前期外部講師への打診および調整 ・3月 次年度前期時間割確定 ・3月 次年度年間スケジュール確定 ・4月 新入生に学生便覧（学則・履修要項含む） <p>（参考資料）</p> <p>https://fmw.ac.jp/syllabus.pdf</p>																				
成績評価の基準・方法																				
<p>（概要）</p> <p>成績は、授業科目担当教員が試験の結果および受講状況などを総合して評価する。試験の成績は、学期末に通知する。評価、評価基準は次のとおりである。</p> <table border="1"> <tr> <td>秀</td> <td>90点～100点</td> </tr> <tr> <td>優</td> <td>80点～89点</td> </tr> <tr> <td>良</td> <td>70点～79点</td> </tr> <tr> <td>可</td> <td>60点～69点</td> </tr> <tr> <td>不可</td> <td>60点未満</td> </tr> </table> <p>日本語学科においては、学習の評価は、試験成績、平常点、出席状況等を総合し決定し、次の表のとおりS・A・B・C・Dの5段階で評価を行う。</p> <table border="1"> <tr> <td>S</td> <td>90点～100点</td> </tr> <tr> <td>A</td> <td>80点～89点</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>70点～79点</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>60点～69点</td> </tr> <tr> <td>D</td> <td>60点未満</td> </tr> </table> <p>※D（60点未満）は不合格とする。</p> <p>（参考資料） https://fmw.ac.jp/syllabus.pdf</p>	秀	90点～100点	優	80点～89点	良	70点～79点	可	60点～69点	不可	60点未満	S	90点～100点	A	80点～89点	B	70点～79点	C	60点～69点	D	60点未満
秀	90点～100点																			
優	80点～89点																			
良	70点～79点																			
可	60点～69点																			
不可	60点未満																			
S	90点～100点																			
A	80点～89点																			
B	70点～79点																			
C	60点～69点																			
D	60点未満																			

卒業・進級の認定基準
(概要) 進級 ① 進級者は判定会議後発表する。但し、疾病、怪我などのやむを得ない事由がある者については考慮することもある。 ② 日本語学科においては、校長は、学生が本学科の定める指導計画に従って授業科目を履修し、学習評価が授業科目の目標から見て満足できると認められる場合に、当該授業科目について履修したことを認定するものとする。
卒業 卒業は、下記の要件を満たす者とする。 ① 履修した一般教養科目と専門科目の単位をすべて取得していること。 ② 卒業判定会議にて、卒業要件を満たしていることを確認する。ただし、疾病、けがなどのやむを得ない事由がある者については考慮することもある。
(参考資料) https://fmw.ac.jp/grade.pdf
学修支援等
(概要) ・担任制 ・教室・図書室・コミュニティースペースの開放

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
こども・介護学科			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
36人 (100%)	0人 (0%)	35人 (97.2%)	1人 (2.8%)
(主な就職、業界等) 保育園、幼稚園、認定こども園、特別養護老人ホームなど			
(就職指導内容) 履歴書作成指導、面接指導、ハローワーク訪問指導、卒業生による講話、学内企業説明会、就職セミナー訪問指導など			
(主な学修成果（資格・検定等）) 保育士、幼稚園教諭2種免許、外語福祉士国家試験受験資格、レクリエーションワーカー、福祉レクリエーションワーカー			
(備考) (任意記載事項)			

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
医療事務学科			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
22人 (100%)	0人 (0%)	22人 (100%)	0人 (0%)

(主な就職、業界等) 医療機関、調剤薬局など
(就職指導内容) 履歴書作成指導、面接指導、ハローワーク訪問指導、卒業生による講話、学内企業説明会、就職セミナー訪問指導など
(主な学修成果(資格・検定等)) メディカルクラーク(医科)(歯科)、調剤報酬請求事務技能認定試験、サービス接遇検定2級/3級、診療報酬請求事務能力認定試験、介護職員初任者研修など
(備考)(任意記載事項)

中途退学の現状 こども・介護学科		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80人	3人	3.8%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任制 ・個別面談(随時) ・保護者面談(随時) ・三者面談(随時)		

中途退学の現状 医療事務学科		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
25人	2人	8%
(中途退学の主な理由) 学業不振、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) ・担任制 ・個別面談(随時) ・保護者面談(随時) ・三者面談(随時)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	コース	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
こども・介護 学科	保育士・幼稚園教諭コース	100,000円	950,000円	355,000円	
	介護福祉士コース	100,000円	750,000円	355,000円	
医療事務学科		100,000円	750,000円	355,000円	
日本語学科	2年コース	50,000円	600,000円	72,000円	
	1年6ヶ月コース	50,000円	600,000円	72,000円	
修学支援 (任意記載事項)					
<ul style="list-style-type: none"> ・総合型選抜減免制度 (授業料より 10 万円/年減免) ・学校推薦型選抜減免制度 (授業料より 5 万円/年減免) ・特別選抜減免制度 (授業料より 10 万円/年減免) ・法人内進学者入学金免除制度 (入学金 10 万円免除) ・法人内進学者入学検定料免除制度 (入学検定料 2 万円免除) ・兄弟学費減免制度 (本学園が設置する学校に兄弟姉妹が在籍している場合、希望する 1 名に対して学納金を 50%減免) ・福祉系資格取得者減免制度 (取得資格に応じて授業料より 5~20 万円減免) ・授業料減免制度 (次年度の授業料 3 割減免) ・特別優秀者制度 (卒業時に 3~5 万円支給) 					

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://fbs.ac.jp/group/pdf/hyoka-iryo.pdf		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制)		
<ul style="list-style-type: none"> ・毎年1月下旬をめどに実施予定 本年度の自己評価をもとに、学生の保護者、医療福祉従事者、教育関係者の意見を取り入れ次年度のカリキュラムおよび運営の参考にする ・評価項目…教育理念、学校運営、教育活動、修学成果、学生支援、環境設備等 		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
在校生の保護者	1年	在校生の保護者
医療福祉従事者	1年	医療福祉従事者
医療福祉従事者	1年	医療福祉従事者
教育関係者	1年	教育関係者
教育関係者	1年	教育関係者
学校関係者評価結果の公表方法		

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://fbs.ac.jp/group/pdf/hyoka-iryo.pdf
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://fmw.ac.jp/
--